

ド・ボスコの風

Joyful Communication!

SALESIAN
BULLETIN
JAPAN

July 2016

No. **17**

インタビュー
ド・ボスコの教え子たち
花田えりこさん



サレジオン小伝
ありがとう! 溝部脩司教
若者にささげた生涯

もっとキミに伝え隊!!
マリア・コスタシスター



90年前、

日本に まかれた種

特集

サレジオ会
来日90周年



サレジオ家族探訪
カトリック
別府教会
ユースセンター

JAPAN X SALESIAN since 1926

「新鮮な心で
聖霊の冒険を受け入れよう」



日向学院中学校・高等学校（宮崎県宮崎市）で初代校長のチマッティ神父像を囲む生徒と田村宣行神父

Message

サレジオ
家族の
皆様へ

サレジオ会日本管区長

マリオ 山野内 倫昭神父

チマッティ神父は46歳の時、日本への最初の宣教師団団長として1925年12月29日イタリア・ジェノヴァ港を出港し、90年前の1926年2月8日に福岡・門司港から日本に上陸しました。日本では多くの人たちと出会い、日本人の精神を深く理解し、ドン・ボスコの弟子として、特により貧しい青少年のために全力を尽くしました。

1965年10月6日に天に召されたとき、人びとはチマッティ神父を「日本のドン・ボスコ」だと呼びました。本人は聖人になりたいと願っていましたが、聖人でありたいとは思っていませんでした。彼は2歳の時に、自分の目でドン・ボスコを見ました（調布のチマッティ資料館には、そのエピソードを描いたステンドグラスがあります）。

『チマッティ神父 本人が書かなかった自叙伝』にある推薦文には「残された無数の手紙には、師の率直な内面が表現され、そのほほ笑みとおだやかな姿勢の裏に、困難、貧困、無理解に耐える不屈の精神があったことを知ることが出来ます」と、サレジオ会のチャーベス前総長がチマッティ神父の現実的な特徴を記しています。

私たちサレジオ家族は、これからサレジオ会来日100周年に向けて歩むために、初期の宣教師たちが伝えてきたサレジオの精神を現代社会の中でどのように実現できるのか、一緒に識別し、取り組んでいきましょう。そうすれば、私たちはイエスの神の国の建設に協力できるのです。教皇フランシスコからの「福音の喜び」の呼びかけと一致しながら――。

2016年6月3日 イエスのみ心の祭日に



マリオ 山野内 倫昭 やまの うち りんあき
1955年大分県佐伯市生まれ、60歳。8歳の時、家族とアルゼンチンへ移住。29歳で司祭叙階。アルゼンチンの哲学院で哲学、社会学などを教え、司牧担当・院長・アルゼンチンとパラグアイ6管区の修練長を経て、1997年（41歳）帰国、日本のサレジオ会員として働く決意をする。育英高専・杉並支部院長、調布サレジオ神学院院長、副管区長・サレジオ家族担当・養成担当を務め、2014年12月より日本管区長。趣味はギター演奏。

Contents もくじ

- 3 Message ● 「新鮮な心で聖霊の冒険を受け入れよう」
- 4 特集 ● **90年前、日本にまかれた種**
JAPAN X SALESIAN since 1926 サレジオ会来日90周年
- 6 チマッティ神父と仲間たち 日本での種まきの旅
- 8 信念とやさしさをもって生きる チマッティ神父の3つの秘けつ
- 10 サレジオ家族探訪 ● **カトリック別府教会・ユースセンター**
～ドン・ボスコの心が息づく“日本のヴァルドッコ”～
- 12 SYM JAPAN ● **第2回 Salesian Youth Day 青年夜間巡礼、開催!**
- 14 インタビュー ● **チャールズ・マウン・ボー 枢機卿**
民族・宗教を超えて共に生きる
- 16 世界のサレジオ家族ニュース
- 20 インタビュー ● **ドン・ボスコの教え子たち**
花田えりこさん from 目黒星美学園小学校・中学高等学校
- 22 活動報告 ● **世界に開かれた人を育てるアジアの姉妹校交流 星美学園中学校高等学校アジア研修旅行**
- 24 サレジオ小伝 ● **ありがとう! 溝部脩司教 若者にささげた生涯**
- 26 もっとキミに伝え隊!! ● **マリア・コスタ シスター**
- 27 Info ● **お知らせ**
- 31 **読者プレゼント**

「ドン・ボスコの風」について ―― 「ドン・ボスコの風」は、喜びを共にし、サレジオ家族の原点を見つめ、絆を深め、社会・世界に羽ばたいて、その実りを分かち合うためのコミュニケーション誌を目指しています。ドン・ボスコの精神を多くの方々と共に共有し、新しいつながりに広がっていくきっかけとしてご利用いただければ幸いです。皆様からの情報提供とご支援をよろしくお願いいたします。

Joyful Communication!

ドン・ボスコの風

SALESIAN BULLETIN No. 17
JAPAN

July 2016



表紙

90年前、最初に来日したサレジオ会宣教師のチマッティ神父と子どもたち。背景には来日した頃の太田の田園風景が広がる。やわらかな表情を浮かべるチマッティ神父のもとに、時空を超えて昔と今の青少年少女たちが笑顔で駆け寄っている。

イラスト：TAKA ©2016



ドン・ボスコとは？

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をささげた神父。1815年イタリア生まれ。名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味）。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ家族とは？

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、30団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジオファミリーとも呼ばれる。

90年前、

日本に まかれた種

特集

サレジオ会
来日90周年



JAPAN X SALESIAN since 1926



学ぶ・働く



子ども・教育



親しみやすさ・仲間



信頼・祈り



祭り・喜び



ヴァンチェンツォ・チマツティ神父

Vincenzo Cimatti

1879年イタリア・ファエンツァ生まれ。25歳でサレジオ会司祭となる。1926年46歳の時サレジオ会宣教師として初来日し、多くの日本人司祭・修道者を育成。音楽家としても900曲以上作曲している。1965年10月6日、86歳で帰天。

学校・教会・活動グループなど、日本各地にサレジオの活動は広がっている。その種をまいたのは、90年前日本にやって来たチマツティ神父と仲間たちだ。

チマツティ神父はイタリア・トリノの名門ヴァルサリチェ学院の校長として教え子から人気があり、恵まれた環境にいた。ヴァルサリチェ学院は当時、サレジオ会司祭をめざす修練者すべてを養成する神学校で、30年間ここで教師・校長を務めたチマツティ神父は今でも「世界中のサレジオ会宣教師の父」として慕われている。

その彼自身が宣教師になりたいという少年の頃からの夢を実現するため、46歳の時その輝かしい地位を捨てて、貧しく困難な国、日本へと旅立った。

人生の大転換となる冒険をしてまで、日本に渡ってきた宣教師たちの思いとは？

取材・文・写真 ● 編集部／協力 ● チマツティ資料館
イラスト（表紙・P41-9） ● TAKA

the Dream goes on!

まかれた種は今...

1965年10月6日、チマッティ神父は86歳で帰天。病気で寝たきりになっても「私の仕事は祈ること」と、人びと、教え子、会員のために生涯祈り続けた。神に全幅の信頼を寄せて日本にまかれた種は今、サレジオ家族8グループ、児童福祉19事業所、学校教育18校・31園、医療・高齢者福祉8事業所、出版事業、ボランティア活動、修道院・神学院99支部などに広がり、今日も親しみをもって、人びとに生きる希望を伝えている。

JAPAN SALESIAN since 1926
90年前、日本にまかれた種

地域の人びと・子どものために

戦前から九州・東京各地の教会を受け持ち、地域の子どものため教会学校や幼稚園・保育園を運営。1950年、東京調布にサレジオ神学院が移転し、ユースセンターも始まる。現在、サレジオ会が受け持つ教会は16拠点。



▼東京サレジオ学園初代園長のタシナリ神父



戦災孤児を救うために

1946

戦災孤児の救済のため、中津ドン・ボスコ学園（現在の聖ヨゼフ寮）と、東京サレジオ学園の2つの児童養護施設を設立（現在のサレジオ小学校・中学校も併設）。サレジアン・シスターズも赤羽に土地を購入し、星美ホーム・星美学園の建設に取りかかる。

日本の未来を担う青少年のために

1946~

戦後の貧しい日本で、青少年が心身とも豊かに成長できるよう、各地に学校を開設。1946年、宮崎小神学校の地に日向中学校（現在の日向学院）を創立。1950年、大阪中心部に大阪星光学院を創立。1960年、東京目黒に目黒サレジオ中学校（現在は横浜にあるサレジオ学院）を創立した。

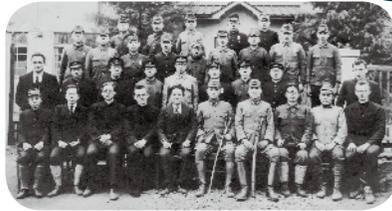


大阪星光学院



サレジオ学院

▼国民服姿の神学生たちと将校（育英工芸学校）



戦時下の苦しみ

1939-45

1939年9月、第二次世界大戦が開戦。日本でも外国人の行動が厳しく制限され、郵便はすべて検閲された。養成中のほとんどの日本人神学生が徴兵され20人近くが戦死。イタリアの本部との連絡も途絶え、人材も資金も無かったが、チマッティ神父は神に全幅の信頼を置き、日本での事業が継続されるよう覚悟を決めて働き続ける。

初の日本人サレジオ会司祭が誕生!

1944

中津に小神学校ができて14年、日本人のサレジオ会員から初めてマルチノ秋元保夫神父が叙階された。多くの仲間を失う中、厳しい養成の道をくり抜けた日本人司祭の誕生は、チマッティ神父たちの大きな慰め、喜びとなった。

▼秋元保夫神父



終戦。ほぼゼロからの再建

1945-46

1945年8月15日、聖母被昇天の祭日に、日本は連合軍に無条件降伏した。別府を除きサレジオ会の九州の事業はほぼ全壊。チマッティ神父は九州と東京を何度も往復して駆けつけ、1年間ですべての事業を再建した。再建や新事業設立には米軍のカトリック信徒が尽力した。

東京下町の子どもと出会う

1933

東京大司教から東京でも働くよう依頼され、三河島教会（荒川・足立）を引き受ける。下町の子どもたちに教会の運動場を開放し、教会学校を始める。

▼三河島教会の教会学校



▼開校当時の育英工芸学校

東京で職業学校を開校

1934

1934年、東京杉並に帝都育英工芸学校（現在は町田にあるサレジオ工業高等専門学校）を開校。出版・印刷事業、修練院、神学校も同じ場所に移転した。



チマッティ神父と仲間たち 日本での種まきの旅

2歳の時にドン・ボスコと出会い、10代の時に宣教師の話聞いたヴァンチェンツォ・チマッティ少年は、いつか自分も宣教師になって遠く貧しい国に行きたいという夢を抱く。名門校の校長を務めていた46歳の時チャンスが到来。ローマ教皇から日本宣教の命を受けたサレジオ会は、チマッティ神父を団長とする9人の会員を日本へ派遣することを決定したのだ。

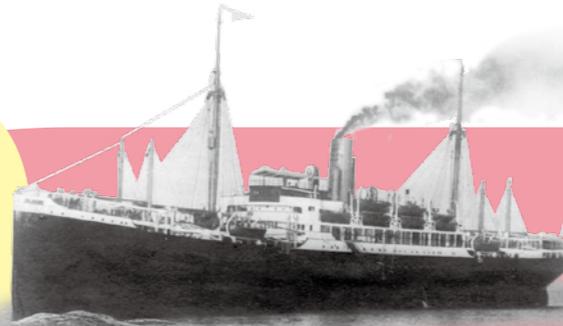


Salesiani di Don Bosco

日本への宣教が決定

1925

ローマ教皇からの命を受けたサレジオ会は、宣教師派遣50周年記念事業として日本への宣教師派遣を決定。日本宣教には精神・文化・学術面で優れた人物が求められ、宣教師派遣を志願していたチマッティ神父は才能・人格とも適材だった。



▲ジェノヴァ港を出発し南アジア回りで日本に向かったドイツの客船「フルダ号」

Departure! いざ日本へ船出!

1925年12月29日、チマッティ神父を団長とする9人のサレジオ会員がイタリア・ジェノヴァ港からフルダ号に乗船し日本へ出発。不安いっぱい乗客たちだったが、チマッティ神父の明るい歌によって踊り始め、すぐに打ち解けた仲間になった。

▼各国に向かうサレジオ会の宣教師たち。船上で。

日本人の心との出会い

船上で初めて日本人の若者と出会う。毎日1、2時間の日本語教室をかけて出てくれた彼は、後に一橋大学学長となる上原専禄氏であった。1926年2月8日、福岡・門司港に上陸。長崎でカトリック信徒のみならず神仏に深い信仰心をもつ日本人の姿に感嘆する。



「ヒゲのある小学生」になる

1926-27

1926年2月16日、赴任地の宮崎教会に到着。前任者のバリ外国宣教会から1年間で任務を引き継ぐため、尋常小学校の国語や修身の教科書で必死に勉強して日本語を覚えた。翌年、サレジオ会員たちは宮崎・中津・大分の教会で働き始める。



▼チマッティ神父の漢字練習帳

出版事業スタート

1928

読書欲が旺盛な日本人のため、来日2年後に大分で出版事業（現在のドン・ボスコ社）をスタート。マルジャリア神父は他の会員や信徒の協力を得て「ドン・ボスコ伝」や機関誌「ドン・ボスコ」（現在の月刊誌「カトリック生活」）など次々と出版する。



世界大恐慌、苦難の始まり

1929

チマッティ神父はドン・ボスコの列福式と総会のためイタリアへ一時帰国。イタリア各地で日本を宣伝し宣教師を募集。翌年8人の神学生を連れて宮崎に戻るが、1929年9月に起こった世界大恐慌の影響で、日本での活動資金に戦後まで困窮し続けることになる。

▲機関誌「ドン・ボスコ」の創刊号



Suore della Carità di Gesù

イエスのカリタス修道女会が誕生

1937

1932年、カヴォリ神父が身寄りのない高齢者や子どものために開設した宮崎の救護院で、マリア長船タキが働き始める。やがて協働者の輪が広がり、1937年、宮崎カリタス修道女会（現在のイエスのカリタス修道女会）が創立された。共に祈り、学び、貧しい人びとに奉仕する活動の輪は広がっていく。

サレジアン・シスターズが来日

1929

チマッティ神父の要請もあり、サレジアン・シスターズの6人のシスターが来日。シスターも困窮した生活の中、教育・福祉事業を徐々に広げ、日本人会員を育てていく。



Figlie di Maria Ausiliatrice

日本人司祭の養成スタート

1930

サレジオ会だけでなく宮崎・大分の司祭を養成するため、中津で小神学校（12-18歳の司祭志願者の養成校）を開校。長崎など各地から生徒を集めたが、途中でやめてしまう生徒も多かった。



▼中津の小神学校の生徒と





Let's follow Don Cimatti!!

信念とやさしさをもって生きる チマッティ神父の3つの秘けつ

文化の違い、戦争や経済的困窮などあらゆる困難を乗り越えて、
日本によるこびの種をまき続けてきたチマッティ神父と仲間たち。
彼らの働きがあったからこそ、今わたしたちがここにいる。
信念とやさしさをもって生きるチマッティ神父の3つの秘けつを紹介しよう。

1 親しみやすい正直者

「優しすぎる」校長先生
人に何かを頼むとき、高圧的な態度を取ってしまうことはありませんか？

ほかからで、生徒と友達のようにすぐ親しくなるチマッティ神父は、人に命令することがありませんでした。生徒に対しても穏やかに「お願い」するので、誰も断れません。生徒は過ちを犯すとチマッティ神父が深く悲しむので、自分も悲しい気持ちになり、自ら回心していました。

どんな人も受け入れて友達に！

チマッティ神父は来日してすぐ、新聞記者や医者・地元の有力者と知り合いになるなど、どんな人も受け入れ、積極的に友達になりました。地域の子どもが集まるように教会の庭を運動場に作り変えて遊んだり、小学校の教科書にある詩に曲を付けて、子どもたちと一緒に歌ったりして友達になる。すると親たちも子どもについてくるのです。

同じ考えをもつ仲良しグループで楽しく過ごすことばかりではなく、彼のように**どんな考えの人をも受け入れる寛容な心と、外に向く勇氣を持つこと**。そうすると、あなたの世界が大きく広がっていくかもしれません。

正直に、謙遜に人と付き合う

チマッティ神父は、どんな人とも**自然体で正直に付き合う**人でした。誰とでも差別なく対等に、ありのままの自分で、友達のように付き合いたかったので

3 神の愛のうちに生きる

神に全幅の信頼を置いて

ときには心配事に押しつぶされそうになることもありますが、チマッティ神父も不安のなかでの生活を余儀なくされてきました。たとえば、1937年、イタリアの本部から視察者が来た時、宣教活動を充実させるために必要な人材と資金の援助を訴えますが、現状の厳しさを理解されませんでした。結果として、人材も資金もないまま、戦時下の統制が厳しくなり本部との連絡が途絶えてしまいます。「気が狂ってしまつ。おぼれそう」と嘆いていたチマッティ神父ですが、**神の愛に全幅の信頼を置いて**、日本での事業が継続されるよう**覚悟を決めて動き続けた**のです。

私たちも困難に直面したとき、神は何を望んでおられるのか、祈りのうちに問いかけましょう。神は共にいて、あなたを励まし、導いてくれるでしょう。

音楽をとおして伝える愛

人に何かを伝えるとき、表情や言葉、ちょっとした

校長や管区長など「人の上に立つ」責任ある立場にあつても、チマッティ神父はいつも**謙遜な態度**で接することを忘れませんでした。

2 よろこびのうちに働く

最も貧しく、困難な人びとのために働きたい！

もし、多忙な日々の中で働く目的を見失っているならば、幼い頃を振り返ってみるといいかもしれません。そのとき抱いていた思いが、今の自分にヒントを与えてくれることがあります。

イタリア・ファエンツァの村でいちばん貧しい家庭に生まれたチマッティ神父は、名門校の校長よりも、**宣教師として働くことが中学生の頃からの夢**でした。46歳にして宣教師となるまで、夢を描き始めてから30年もかかりましたが、彼がイタリアで身に付けた教育者・生物学者・音楽家としての優れた才能は日本で大いに役立ちました。

素直に心を開く

チマッティ神父たち宣教師は来日後すぐ長崎の大浦天主堂に行き、聖堂の聖母像を見て、「扶助者聖マリアが先に来ていた」と言つて心からの感動を味わいました。また、日本人の信徒や子どもたちの信心深さにも、尊敬の念を抱きました。

出会う相手や起こる出来事に素直に心を開いて、尊敬や驚きの心をもつこと。そうすれば、日々の生活や仕事、感動やよろこびで満たされていくことができます。

しぐさなど、いろいろな方法があります。チマッティ神父が得意とした一つの方法は、音楽でした。

来日後まもなく出会つた駐日教皇大使が彼の音楽に驚き、鹿児島で開催されるアンジの聖フランシスコ帰天700周年記念行事での演奏を依頼。これを皮切りに日本全国2000回におよぶ巡業コンサートを行いました。「音符一つ一つをとおして、**主のため、主とともに愛を表すことができるのです**」と語るように、彼がこのコンサートで表現し続けたことは、神と人びとへの愛でした。

30年勤めた職場を離れて、言葉も知らない国に旅立ち、残りの生涯すべてをささげて仕事をする。この決断の根っこには、少年の頃からの大きな夢と神への厚い信頼があつた。チマッティ神父たちが日本でまいた種は、各地で芽生え、地域や社会に豊かな人材を送り出してきた。そして今、彼らの夢と思いを受け継いで、私たちが種をまいていく番である。

チマッティ神父をもっとよく
知りたい人のために



チマッティ資料館

1983年、チマッティ神父の遺徳をたたえ、その貴重な資料を保存するために、調布サレジオ神学院内に「チマッティ資料館」が建てられました。次のような資料が収められています。

- チマッティ神父が作曲した950以上の楽譜
- チマッティ神父著作全集
- 6300通ほどのチマッティ神父の手紙
- 1926年から1949年まで、管区長として綴っていた日記
- チマッティ神父の写真数千枚
- チマッティ神父に関係ある新聞記事
- コンサートのプログラム数百枚
- 戦前戦中、日本政府が教会に出した通達
- ジェズベペ・キアラ神父墓碑 (キリシタン資料、調布市文化財) など

●資料館の見学時間

9:00~12:00 / 13:00~17:00
案内者不在の場合があるため、電話にてご確認・お申込みのうえ、ご来館ください。

●お墓への巡礼 7:00~18:00
調布サレジオ神学院 地下聖堂内

●毎月のミサ 毎月6日 10:30~
サレジオ神学院の聖堂でミサをささげ、チマッティ神父の取り次ぎを祈っています。どなたでも参加できます。チマッティ神父の取り次ぎにより神様からのお恵みをいただいた方は、列福運動担当のコンプリ神父へご連絡ください。

●見学申し込みと連絡先

〒182-0033
東京都調布市富士見町3-21-12
サレジオ神学院内 チマッティ資料館
(館長：ガエタノ・コンプリ神父)
TEL: 042-482-3117
FAX: 042-490-6707
E-mail: db@v-cimatti.com
URL: www.v-cimatti.com



自由遊びの時間は、学年が入り混じってのびのびと遊んでいる。教会ホールにて。



幼稚園の園庭で遊ぶ子どもたちと高校生スタッフ



納涼大会のためにみんなでカレー作り



誕生会でプッポ神父から祝福をいただく。聖堂にて。ユースセンターが最も大切にしている「イエス様の話」の時間

Ciao! サレジオ家族探訪 Visit the Salesian Family 各地のドン・ボスコの仲間を紹介します

ドン・ボスコの心が息づく 日本のヴァルドッコ 大分県別府市末広町 カトリック別府教会・ユースセンター



聖堂で主任司祭プッポ神父の話を聞く。右奥に見えるのはドン・ボスコとドメニコ・サヴィオのモザイク画



司祭館入口に立つチマツデー神父像

熱があっても行きたいユースセンター

当している教会です。サレジオ会の思い出が残る教会で、大分司教の司牧指針に従いつつ、サレジオ的な伝統も大切にしています。

別府教会は「福祉の教会」とも言えます。別府は病者の街で、温泉治療のため多くの病人が全国から集まってきました。教会はそれを念頭に置き、病者訪問などの活動にも力を入れています。司祭は毎週必ず2〜3回、病者の訪問を行います。毎週金曜日には信徒のグループが訪問します。

もう一つの特徴は、国際的であることです。別府市には立命館アジア太平洋大学（APU）があり、そこに通う60〜100人の若い外国人学生の信徒のために英語と韓国語のミサがあります。自分たちでイベントを企画し、日曜のミサ、クリスマス、復活祭を大切にしています。

ユースセンターは、とてもいきいきとしています。併設されている海の星幼稚園と同じように、地域の人びとへの大切な宣教の場です。メンバーは海の星幼稚園の卒園生が大部分ですが、子どもたちが学校の友達も連れてくるようになり、現在130人の小学生たちが登録しています。土曜日の昼過ぎになると子どもたちが次々とやってきて、硬筆、英会話、茶道の3つのクラブに参加したり、バスケットボール、サッカー、バドミントン、卓球、工作や手芸など、好きな遊びをみつけて友達とのびのびと遊びます。

4時からの最後の30分は、学年ごとに別れて「イエス様の話」を聞きます。この時間は、ユースセンターが最も大切にしているひと時です。みことばの種をまくことで、幼稚園で芽生えた宗教心が育ち、成長していきます。スタッフは司祭2人、シスター8人（サレジオ・シスターズとイエスのカリタス修道女会）、サレジオ・コオペラトリー会員2人

90年で5千人以上の信徒が誕生

1926年2月、サレジオ会のチマツデー神父を团长とする6人の司祭と3人の修道士からなる最初の宣教師たちが、初めて日本の地を踏みました。その翌年、タンギー神父が大分市を拠点にして別府市へ定期的に通り、宣教を開始。1931年12月9日にカトリック大分教会から独立して、別府小教区が始まりました。当時は周囲の無理解や反対など多くの困難があったようですが、次第に軌道に乗り、日曜学校の活動も活発になっていきました。

サレジオ会員がこの別府の地で働き始めて90年。戦争など多くの困難を経ながらも、歴代の司祭たちの苦勞、信徒の熱意、修道女たちの多大な協力を得てカトリック別府教会は発展してきました。現在の信徒数は約7500人です。別府教会が始まってから今までに、5千人以上の信徒が誕生しました。また、溝部脩司教を始め、数多くの司祭、修道者の召命の恵みがあったこともこの教会の特徴です。

病者の訪問に力を入れる「福祉の教会」

カトリック別府教会は、サレジオ会が担別府教会の信徒の皆さん、そしてユースセンターのOBやOGの中高生たちです。13歳から85歳まで、老いも若きも皆が子どもたちのために自分ができる協力をしながらユースセンターを盛り上げています。「学校は少しの風邪でも休みたがるのに、ユースセンターには熱があっても行きたがるんですよ。本当にユースセンターが大好きなんです」と保護者の方が話してくれました。

サレジオ会日本宣教90周年。別府教会は「日本のヴァルドッコ（トリノにあるサレジオ会事業の発祥地）」として、サレジオ会日本管区の草創期からドン・ボスコの精神を生き続けてきました。ユースセンターはドン・ボスコが大切にしていた事業であり、サレジオの原点とも言えます。ドン・ボスコの心を、この別府の地で受け継いでいきたいと思っています。

（文・写真）カトリック別府教会・ユースセンター提供



カトリック別府教会・ユースセンター
大分県別府市末広町 1-14
http://www.ctb.ne.jp/~catbek/

SYMの集い



SYM JAPANでは、青年スタッフを中心に2か月に1回「SYMの集い」を実施しています。対象は、教会やボランティアグループ、学校の同窓生など、サレジオ家族にかかわる18～30歳の青年。「ドン・ボスコが好き!」という確固たる軸に、年代、男女、信徒・未信徒、所属するグループなど様々な垣根を越えて、青年たちが集まっています。

内容は、ミサ・食事・スポーツ・分かち合い。2016年度は11月26日、1月28日、3月11日の土曜日17:00～、赤羽サレジオン・シスターズ修学院(東京)で開催を予定しています。この活動に興味のある方はぜひご参加を!

「あんまり行けないかも…」という方も、まずは公式LINE@で友だちから始めてみませんか? これまでの活動報告や今後の活動予定について発信しています。気になることやわからないことがあれば、メッセージでお気軽にご質問ください。

SYM in カトリック浜松教会!



SYMの一環として、不定期でカトリック浜松教会を訪問し、毎月第4土曜日に開かれる「若者の集い」に参加しています。外国人移住者の子どもたちとひとしきり遊んで親睦を深めたあと、分かち合いと祈りの時間をもって、子どもたちの霊的養成に協力しています。

また夜は、ホームレスの方々への炊き出しボランティアを行っているグループ「エスペランサ」の活動に参加。翌日には、いつくしみの特別聖年の巡礼指定教会でもある浜松教会でミサに与り、聖年の扉をくぐるなど、充実した活動です。

来る9月17日(土)～18日(日)には、浜松教会の青年とSYMのメンバーで計画した「いつくしみの特別聖年企画 青年徒歩巡礼」が行われます! 詳細はLINE@アカウントから。みなさんのご参加を心よりお待ちしております!

SYM JAPANへの参加に興味のある青年(グループ)はぜひご一報を!

公式LINE@アカウント

LINE ID: @pzs3581nで検索、友達に追加してね!



SYM事務局 symjapan@salesians.jp

第2回

SALESIAN YOUTH DAY

青年夜間巡礼、開催!

2016年5月7～8日、第2回Salesian Youth Day 青年夜間巡礼が行われた。「With Jesus!! イエスと歩こう!」をテーマに、50人近い参加者がカトリック調布教会(東京)から目黒星美学園中学高等学校を経てカトリック碑文谷教会まで約20kmの道のりを巡礼。サレジオの仲間とともに、イエスとともに夜を歩いた青年たちの体験を分かち合いたい。

取材・文・写真 ● SYM JAPANスタッフ



6:00 巡礼、Gooooal!!

ゴール地点のカトリック碑文谷教会に到着!みんな、おつかれ! 教会の子どもたちとともにミサにあずかった後、山野内倫昭管区長を交えて巡礼の振り返りをしたよ!



到着後の分かち合い

- 1年の大きなイベントの1つとして、サレジオのつながりの中でドン・ボスコと深いかわりのある青年たちで集えて、とても幸せでした。(19歳・男性・サレジオ高専)
- 私は初めてこういうイベントに参加したので、どうなるかとすごく緊張していました。でも、初めて来た私でもみなさんすぐに受け入れてくださって、本当にうれしかったです。(19歳・女性・大和教会)
- 歩いているときに、「疲れた」とか「足が痛い」という言葉は聞きましたけど、「やめたい」という言葉は誰も言ってなかったんですよ。きっとみんなは疲れもよるごびに変えて歩いてたんだろうなあと感じました。歩きながらみんなと話すことができ、とても楽しかったです。(20歳・女性・志願生)
- 今回の夜間巡礼では、学校のすごみを実感しました。2日間、サレジオの雰囲気とこれだけの人数で共有できたことで、テーマのとおり目に見えないものを体感する糸口になったのではないかと思います。(24歳・男性・調布教会)



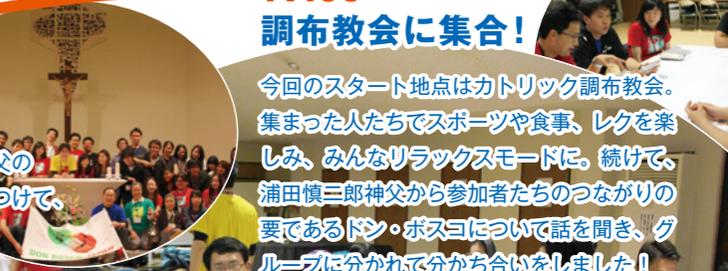
2:30 ひと休み……

中間地点の目黒星美学園中学高等学校では、夜中にもかかわらず、シスター方がおやつを準備して待っていてくれた~!ありがとう! その後、チャペルにて真夜中の聖体礼拝。心に元気をもらって、巡礼の後半へ!



23:00 しゅっぱ~つ!

調布教会主任司祭 ビエトル・ソーリヒ神父の祝福を受けたメダイをつけて、しゅっぱ~つ!



17:00 調布教会に集合!

今回のスタート地点はカトリック調布教会。集まった人たちでスポーツや食事、レクを楽しみ、みんなリラックスモードに。続けて、浦田慎三郎神父から参加者たちのつながりの要であるドン・ボスコについて話を聞き、グループに分かれて分かち合いをしました!

Q.ドン・ボスコの好きなところは?

人を救う使命感に燃えているところ。ほくは将来医者になりたいのですが、いちばん弱っている人を見つけ、そこに手を差し伸べるドン・ボスコの姿は自分の活力につながっています。(18歳・男性・サレジオ学院OB)

活発なところ。神父様やシスターって、ユーモアはあるけど堅苦しくていっしょに遊ぶというイメージはまったくなかったので、すごく新鮮でした。(20歳・女性・星美短大)

不良を真っ向から否定する教え方をしないところ。ほくも中学校のとき不良少年だったけど、サレジオ学院のカトリック研究会に入って徐々に変わっていきました。普通の中高だったら不良のまま終わっちゃってたかもしれない。ドン・ボスコの生徒でいられたことにすごく感謝しています。(18歳・男性・サレジオ学院OB)



私は農村に生まれ育ちました。400年ほど前、ミャンマーに移住したポルトガル人入植者をミャンマーの王がマンダレー周辺に強制移住させ、現在その子孫が9つの村に暮らしています。私が生まれた村はその一つで、仏教とカトリックが半々という環境でした。2歳の時に父が亡くなり、残された母と兄2人、姉2人と私のために、教会の神父様が面倒をみてくれました。私と兄たちはマンダレーのサレジオ会寄宿学校で学

びました。学校には多くのイタリア人のサレジオ会員がいて、その若々しい喜びの雰囲気はひかれ、一緒に作り上げる芝居や音楽も好きでした。その影響で、神父への道を歩み始めたのです。28歳の時に、ラーショーでサレジオ会の司祭に叙階され、紛争地域のカチン族の地方に赴任しました。その後、ミャンマー各地で司教として働いてきました。

軍事政権下の長い苦しみ

ミャンマーは、50年余りにわたる軍事独裁政権によって、アジアで最も豊かな国の一つから、最も貧しい国になりました。国民の85%が仏教徒で、1956年に仏教が国教化され、仏教徒は優遇されますが、他の宗教は差別されています。カトリック教会は、学校などの施設を国有化され、外国人宣教師は追放されるなど弾圧されてきましたが、それでも成長しています。信徒数は50年前35万人でしたが、現在は80万人です。

昨年11月の選挙でアウンサンスーチー氏率いる国民民主連盟

が圧勝し、ミャンマーの歴史に新たな時代が始まりました。この50年の間に、教育、インフラ、金融、税制など、国のあらゆる仕組みが崩壊したので、新政権が取り組むべき問題は山積みです。

民族・宗教を超えて共に

2008年のサイクロンで15万人が命を落としました。サイクロンは人びとからすべてを奪いましたが、多民族・多宗教の人びとの中に助け合いと一致の精神が生まりました。

人びとの和解と一致のために対話を続けるボ-枢機卿は「親しみと情熱の人」だ

チャールズ・マウン・ボ-枢機卿

民族・宗教を超えて
共に生きる

ミャンマーそして世界の人びとの平和のために働くチャールズ・マウン・ボ-枢機卿が、今年4月、世界宗教者平和会議のため仏教・ヒンドゥー教・イスラム教の指導者と共に招かれて来日。多忙なスケジュールの合間にサレジオ会日本管区本部を訪れ、あらゆる民族・宗教の違いを乗り越えて共に生きる希望を語った。



ボ-枢機卿はミャンマーの教会のみならず、政府や宗教など立場を超えて信頼される存在

マ-の教会は、国の建設に貢献するため、①平和と和解、②教育、③少数民族の権利擁護、の3つの分野で働く方針を打ち出しています。

平和と和解のために、私個人としても諸宗教の指導者たちと頻りに連絡を保ち、交流や会合を行っています。また、平和賞を毎年出す団体を創設し、宗教の一致・調和に貢献した人を表彰しています。対話の努力によって、原理主義のヘイトスピーチも徐々になくなってきました。昨年12月、私の司教叙階25周年の祝いには、仏教、イスラム教、ヒンドゥー教の方たちも含め10万人以上が集まりました。諸宗教の指導者が講話を行い、諸宗教対話の祭典になりました。

未来を担う人材の育成が急務

ミャンマーは今、教育プログラムを最も必要としています。国が開け、投資やビジネスのために多くの外国資本が入り、土地や富を略奪し放題になっています。保健、農業、社会を担う人材の育成が急務であり、国際的協力を

必要としています。カトリック学校を返還するよう、政府と交渉を進めています。サレジオ会の学校は2つあります。ミャンマーの教会だけで運営する力はありませんが、海外の支援を受けられれば幸いです。今回日本の外務大臣に会い、ミャンマーへの支援を感謝し、今後も「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えてほしい」とお願いしました。

日本社会の穏やかさ

初来日は1999年、アメリカに向かう途中の2日間、東京の調布サレジオ神学院に滞在し、チャ-ティ神父様のところを訪ねたことが深く印象に残っています。今回もさまざまな見聞ができましたが、日本社会の穏やかさ、相手を受け入れる雰囲気は、私たちが大いに学ばなければなりません。

ミャンマーは長年の軍事独裁が終わり、新しい時代が始まりました。まだまだ国際社会の助けが必要ですが、日本の教会、政府がこれまで尊い援助をくださったことを心から感謝しています。ミャンマーの教会もいつか成長し、より困難にある人びとを助けたいと思っています。

略歴

チャールズ・マウン・ボ-枢機卿

Cardinal Charles Maung Bo

1948年ミャンマー・シュエホの農家に生まれる。2歳で父と死別、マンダレーのサレジオ会寄宿学校で学ぶ。1976年サレジオ会司祭に叙階され、ラーショー教区司教等を歴任。民族・宗教を超えたミャンマーの指導的立場の一人として、平和と調和の建設に尽力。2015年教皇フランシスコより枢機卿に任命される。68歳。



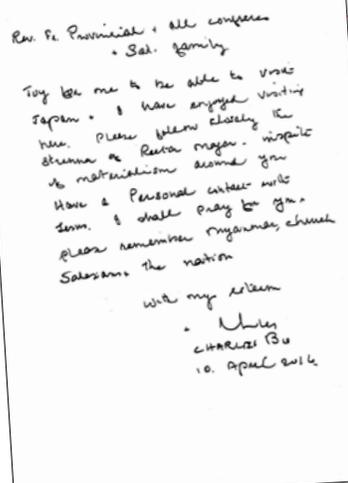
チャールズ・ボ-
2016年4月10日

ボ-枢機卿からのメッセージ

日本のサレジオ家族の皆さんへ

管区長様、会員の皆様、サレジオ家族の皆様、日本を訪れることができたことは、私にとって喜びです。そして、ここ管区長館で心楽しいひと時を過ごせました。どうぞ総長のストレナ(サレジオ家族年間目標)を、心をこめて良く実践し、周りの物質主義に惑わされないでください。イエスとの親しい絆を持ってください。皆さんのためにお祈りいたします。どうぞ、ミャンマーの教会、サレジオ会、国を忘れないでください。尊敬をこめて。

「サイクロンはすべてを奪いましたが、人びとに助け合いと一致の精神を生みました」





イエメン

襲撃受けサレジオ会員が消息不明

2016年3月4日、中東のイエメン・アデン市にある神の愛の宣教師会が運営する貧しい高齢者のための施設を武装集団が襲撃、インド人サレジオ会員トム・ウツンナリル神父を聖堂に閉じ込めて施設内で銃を乱射、4人の修道女を含む16人を殺害。ウツンナリル神父は拉致され、消息は今もわからない。事件は世界各国で報じられ、インド政府、インド司教協議会、南アラビア使徒座代牧区などもウツンナリル神父の発見に尽く



自転車で1万5千kmの旅をするヤコブさんとエルネストさん

です。「エルネストさんは「ヤコブの情熱が伝染したんです。自分たちの旅を通してドン・ボスコの活動を支援するというアイデアはすぐに気に入りました」と語る。旅の中で、イスタンブールのドン・ボスコ難民の家、地震発生後まだ困難な状況が続くネパールのカトマンズ、ベトナム・ホーチミン市のサレジオ会が運営する貧しい青少年のための寄宿学校を訪問予定。2人は活動をウェブサイトで(www.pedalforhumanity.org)で紹介、ドン・ボスコの事業に、サイトから直接寄付できるようにしている。

エクアドル

大地震の悲しみを越えて

2016年4月16日(日本時間17日午前9時前)、南米の赤道直



イエメンで消息不明となったウツンナリル神父

しているほか、世界のサレジオ家族による祈りの輪が広がっている。サレジオ会副総長フランチェスコ・チエラ神父は、「情勢は日々悪化していましたが、全員が脱出してしまえばイエメンにおけるカトリック教会の存在がなくなることを意味しました。残るか残らないかの決断は各自に委ねられました」と語り、早期解放を願って共に祈るよう呼びかけている。ウツンナリル神父はインド・ケララ州出身、4年前から宣教師としてイエメンで働いている。昨年9月、担当の教会が放火され、以来、神の愛の宣教師会の施設に住んでいた。

ローマ本部

メディアでつながるサレジオ世界

サレジオ会総本部のニュースサイト ANS (Agenzia Info Salesiana) サレジオ通信局) が一新された。ANSは世界中のサレジオのニュースを毎日収集・発

下にあるエクアドルで大地震が発生。これまでに660人を超える死者が出るなど、甚大な被害が出ている。サレジオ会はエクアドルに29支部があり、被害の大きかったマンタでは、施設・教会が被災したが、サレジオ・コオペラトリーや同窓生たちと共に、被災者や困窮する家庭の支援に取り組んでいる。14歳の時からサレジオのボーイスカウトに参加していたというファン・カルロス・マシアスさんの家は震源地にあり倒壊。「ボ



地震で損壊したサレジオの施設



学校に戻ったサレジオの生徒たち

信しており、豊富な写真・動画・記事を通して、読者はサレジオ世界の動きを知ることが出来る。ANSサイト (<http://www.ans.org>) は、イタリア語・英語・スペイン語・フランス語・ポルトガル語・ポーランド語で閲覧可能。ANS公式Facebookや公式YouTube動画チャンネルへのリンクもある。特に、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス神父は、サレジオ家族に向けたビデオメッセージをYouTube動画(日本語を含む約30言語の字幕付き)で定期的に発信している。フェルナンデス総長はサレジオ情報共有について、「良い出来事、報告し合いましょ」と呼びかけ、「支援を必要とする人びとのことを、私たちが行っている良いことを知らせることを、ドン・ボスコは大切にしています」と語る。日本が属する東アジア・オセアニア



画像も豊富に一新されたANSのニュースサイト

ランディアとして人のために働くこと、特に最も助けを必要とする人に奉仕することが好きだった」というマシアスさんは、すべてを失った今も、医師として、マンタの教会に来る人びとのために無料で診療を行っている。エクアドルにある280の学校が損壊し、8万8千人の子どもたちが教育の場を失ったが、補修されたサレジオ学校は6月13日に再開、初日は心身をほぐす遊びや心理的なケアの活動、午後は保護者のためのプログラムが行われた。サレジオ大学の心理学者らが心のケアにあ

エクアドル地震被災者支援ご寄付のお願い

DBKドン・ボスコ基金は、エクアドルの被災地のための募金を受け付けています。振込先は下記のとおりです。

郵便振替口座番号
00190-5-292253

加入者名: ドン・ボスコ基金
※通信欄に「エクアドル地震のため」と明記してください。

スロバキア

国際サレジオユーススポーツ大会

2016年5月8日、第27回国際サレジオユーススポーツ大会が閉幕した。大会はスロバキアとオーストリアで行われ、2か国共

(EAO) 地域にもユースサイト Boscolink (<http://www.boscolink>) があり、EAOのサレジオ情報を日々英語で紹介している。

ドイツ

ドイツ・ベトナム 自転車の旅

2016年4月10日、エルネスト・ロイグさんとヤコブ・シュタインクルさんは、ドイツからベトナムまでの15か月にわたる自転車の旅に出発した。1万5千kmの旅の出発点は、ケルン大聖堂。看護師である2人は、Don Bosco Stebenleiter(ドン・ボスコ・ストリート・チルドレン)のために寄付を募り、各地でドン・ボスコの家にも立ち寄る。「世界中を旅するのがずっと夢でした。看護師の研修でエルネストに出会い、計画を話すと、彼はすぐに乗り気になりました」と語るヤコブさんは、身寄りのない子どもたちを支援し教育するプロジェクトのボランティアとして、東ティモールでサレジオ会員と共に1年間働いた経験をもつ。「その間に、自分の召命は、医療に携わることだと発見し、まず看護師の資格を取って、将来医師になると決心しました。自転車の旅は、サレジオ会員に感謝を表す自分なりのやり方



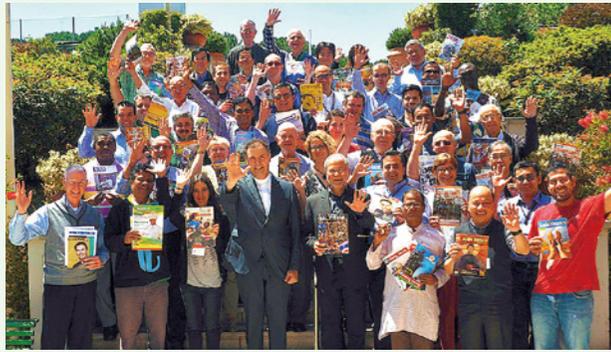
約1000人のサレジオ青年がスポーツ交流を楽しんだ

同開催は初めて。スロバキア共和国アンジェイ・キスカ大統領が後援者となった。13か国から約1千人の若者がさまざまな競技に出場、スロバキアのサレジオ会オラトリオから260人のボランティアが参加した。サレジオ会青少年司牧顧問フアビオ・アツタール神父が決勝戦前のミサを司式。競技終了後、参加者はウィーンへ移動、市内ツアーやサレジオ・ギムナジウムで催された文化イベントを楽しんだ。

ハラカア

教育の緊急事態 高校生が訴え

ラテンアメリカおよびカリブ海地域は経済成長が鈍化し、過去10年間で進歩した貧困率の改善、社会的平等の向上、質の高い教育制度などが水の泡になりにかぬない状況となっている。2016年5月、



世界中の「ドン・ボスコの風」 Bollettino Salesianoが大集合!

2016年5月19～22日、ローマのサレジオ会総本部で、サレジオ会会報「ボレッティーノ・サレジャーノ」(日本では「ドン・ボスコの風」の名称で発行)の編集代表者会議が開催され、30か国以上から約50人の編集者が参加しました。会合には世界各地の会報誌が大集合。雑誌だけでなく、アプリを使ったデジタル版を発行している国も! ドン・ボスコの時代から出版され続けている「ボレッティーノ」とは?

▶ 創刊は?

創刊年 1877年 (139年前)
創刊者 ドン・ボスコ (62歳の時)
目的 サレジオのよい活動・精神を人びとに知らせるため。人びとにサレジオの活動・使命と関わってもらうため。
対象 サレジオの事業(学校・福祉・教会・宣教など)に関わるあらゆる人びと。協力者や恩人、これからサレジオと出会う人。

▶ 今、世界のボレッティーノは?

種類 60エディション(翻訳版ではなく各地域で編集・発行)
言語 30言語
地域 130以上の国で頒布
スタッフ サレジオ会員だけでなく信徒協力者や編集制作の専門家が編集長・制作を担当。



日本で公開されているドン・ボスコの風 Facebookページ

▶ デジタル版・アプリも登場!

イタリア版では、雑誌だけでなくウェブで記事を掲載。過去の記事も検索できます。中米管区(グアテマラ、コスタリカなど6か国)は雑誌、ウェブ版、Facebook、Twitterのほか、モバイルアプリがあります。スマートフォンやタブレットで「ボレッティーノ・サレジャーノ」が読めるアプリは、ポルトガル語(ブラジル Boletim Salesiano)、スペイン語(中米 Boletín Salesiano CAM)、イタリア語(イタリア Edicola Salesiana)などがGoogle PlayやApp Storeで公開中。



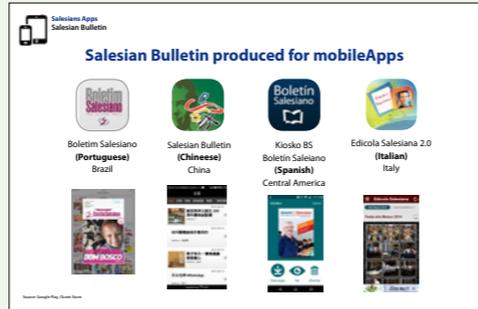
イタリア「Bolettino Salesiano」ウェブサイト(イタリア語)
<http://biesseonline.sdb.org>

▶ よいニュースをシェアしよう

サレジオ会のフェルナンデス総長は「ボレッティーノ・サレジャーノ」が世の中に「よいニュース」を伝え、サレジオの活動や精神を発信し、読者に共に働くよう招く重要なツールだと強調。各国の文化や独自性を大切にしながら、世界の情報も分かち合っていくこと、呼びかけています。



中米管区「Boletín Salesiano」ウェブサイト(スペイン語)
<http://www.boletinsalesiano.info>



アプリも公開されている



大統領に教育の改善を求め訴えた高校生代表ら

パラグアイに約20校あるサレジオ学校連合会の各校は、質の高い教育を要求する学生たちに連帯を表明するため全国学生ストライキに参加。一方、サレジオ学校連合会は、長期的な教育計画と、「より弱く貧しい状況に対応する」行動計画を立ち上げるよう政府に要請した。高校生たちはエンリケ・リエラ教育文化大臣と4時間におよぶ会合で合意に至らなかったが、その後、パラグアイのオラシオ・カルテス大統領は学生代表らと会い、教育の質を改善する合意文書に署名。リエラ教育文化大臣が「国家的教育の緊急事態」を宣言し、デモや学校の占拠は収束した。サルマ・アグエロのサレジオ高校の生徒も大統領と会った学生代表の一人。ドン・ボスコは「国の幸福は、若者の健全な教育にかかっている」と語っている。



ティファナのオラトリオで過ごす移民の子どもたち

アメリカ合衆国の政治的庇護を求めて、アフリカ、ハイチ、中米、メキシコから1千人近い移民がメキシコの国境の町ティファナにたどり着いている。聖フランシスコ・サレジオ・オラトリオは、移住申請の結果を待つ人びとを支援。オラトリオの施設は窮屈になっているが、住む場所も食糧もない人びとを受け入れるため、心のスペースは広げられている。ティファナのサレジオ会院長フェリペ・ブラセンシア神父は、移民にオラトリオの食堂を開く用意があるが、「本当にたくさんの方が来ているので複雑になっている」と言う。普段は1日に30人程度を受け入れているが、現在は数百人

オラトリオを移民に開く

メキシコ

におよぶ。このオラトリオはあまり広くはなく、数部屋を宿泊用に模様替えした。「他の教会のボランティアにも助けってもらっています。地域集会所の台所で食事をすることも。多くの場合、子どもを含む家族全員で来ているからです。」これまで何とか資金や物資をまかなってきたが、水道光熱費が増えることは必至。ブラセンシア神父はそれでも「私たちは人々に奉仕したいのです。この人たちは私たちの兄弟で、私たちが必要としているのですから」と語る。

ローマ総本部

サレジオ同窓生、新たな熱意

2016年6月14、19日、サレジオ同窓会世界連合の新評議会がローマのサレジオ会本部で初会合を開いた。ミヒャル・ホルト新会長と3人の副会長、4人の評議員が参加。世界連合顧問ホセ・パストル・ラミレス神父、サレジオ家族担当最高評議員エウセビオ・ムニョス神父が同伴した。会合は6か年計画の7つの優先課題のため、具体的な戦略を打ち出すことを目指した。例えば、「School of Life」の研修に世界の同窓生1千人が参加する、各国レベルで同窓会を若返らせるため同窓会青年部とサレジオ会青少年司牧部門



サレジオ同窓会世界連合ホルト会長(右)とフェルナンデス総長

が協力し2千人の同窓生を活動に巻き込む、など。6か年計画の幅広く大胆なビジョンの中には、4つの主力プロジェクトが含まれる。①あらゆるレベルで「常設の同窓会事務局」を設置、この6か年で50万人の同窓生とつながることをめざす。②「ビジネス・プラットフォーム」(企業家たちの連合)を立ち上げ、キリスト教的・サレジオ的な理念をビジネスの世界に導入、サレジオ家族のプロジェクトを支援する。③「同窓生アカデミー」を立ち上げ、同窓生の養成・教育のプロジェクトを結ぶ。④サレジオ会の青少年司牧や宣教活動で協働する「同窓生ボランティアサービス」を展開する。16日夜はサレジオ会フェルナンデス総長や最高評議員と夕の祈りを共にし、同窓会の「祈りと約束」を唱和した。

DBの

ダン・ボスコ

★ 教え子たち ★

手作り教室や執筆活動とおし
て、子どもたちに自分の手で作る
よろこびとわくわくを伝える女性
がいる。前例のない肩書きを持つ
彼女は、小さな頃から作ることに
好きで好きでたまらなかつたとい
う。マリア・マザレロの姿に影響
を受けた小学生時代から、どのよ
うにして今にたどり着いたのだろ
うか？ 現在は2児のママでもあ
るフード・クラフトデザイナーの
花田えりこさんに話を聞いた。

★★★

星美に入るきっかけは？

両親がミッション系の学校に入れた
かったのだと思います。両親ともに
カトリック信者で、幼稚園も目黒に
あるカトリック幼稚園でした。なの
で、自然な流れで目黒星美学園の
生徒になっていましたね。

また、マリア・マザレロ(サレジオン・シ

スターズの創立者)が手仕事を女の子に
教える話を聞いたとき、すごく惹か
れたんです。というのも、私は小さ
い頃から作るのが好きで、休み時
間になると何かしら作っていました。
それで、マザレロが女の子たちを集め
て一針一針縫うというシーンを見て、
子ども心ながら「こんなことしたい
なあ」と思っていました。家庭科や
図工の時間にシスターや先生方から
教えてもらう以外にも、一般の手芸
作家が書いた本を読むのが好きで、
ずっと憧れていました。

さらに、学年が上がってくると、
学校で下級生の面倒を見る機会が



マリア・マザレロが女の子に手仕事を
教える姿が原点、と語る花田さん

フード・クラフトデザイナー

No.22 花田 えりこ さん

★サレジオ歴★ 目黒星美学園小学校・中学高等学校

プロフィール

親子わくわくクラフトクッキング教室主宰。「手作りは世界でたったひとつの宝物」であ
るといふよろこびを伝え、親子さんたちと楽しく触れ合っている。カルチャーセンターを
はじめ学校や幼稚園に出向くなど、教会や母校での絆も大切にしながら活動中。「こじ
か」「家庭の友」に連載をもつ。著書『本日開店 ミニばんやさん』(岩崎書店)『わくわ
くクッキーどうぶつえん』(マリン企画)ほか。

Facebook

「わくわくクラフトクッキング」<https://www.facebook.com/Wakuwakukurafutokukkingu>

「えりー はな (elly hana)」<https://www.facebook.com/elly.hanada>

Instagram

「@elly.hana.deco」(elly hanada) <https://www.instagram.com/elly.hana.deco/>

与えられます。そのときに、小さい
子にちようと折り紙を教えるだけで
すごく感激してくれたんです。その
ことがずっと嬉しかったですね。だか
ら、振り返ってみると小学校の頃に
今の仕事の原点がある気がします。

今の仕事に就いたきっかけは？

高校生活は、全体的に勉強に追
われている日々でしたので、将来なに
をやるかを考えるよりも、「今を一
生懸命やらない」と思って必死で
した。ただ、将来は「料理・手作
り・子どもにかかわることをしたい」
「本を書きたい」という漠然とした
思いがありました。自分も手芸作家
の先生たちのような本を出して、小
学生の頃に読んだときのわくわく感
を子どもに伝えたいなと思っていま
した。

大学では児童系の学科に入って子
どものことを勉強し、職業を自分で
作りだしたいと考えていました。子
どもの頃に見た手芸の本をお手本
に、自分のスタイルを作りたいなと

思っていました。

卒業後3年ほど一般企業に勤め
た後、料理やパンのかわいい作り方
を自分で学びました。最初は雑誌
の読者ページに写真と手紙を送り、
徐々に掲載されるはじけると、今度は
「原稿料を出すので書いてください」
という依頼を受けるようになりまし
た。さらに、テレビや雑誌で広まるよ
うになると、「講師として教えに来
てください」など様々な問い合わせ
が来るようになりました。自然と望
む方向に向かっていった感じですね。

フード・クラフトデザイナー とは？

フード・クラフトデザイナーは、料
理そのものを極める料理研究家とは
違い、子どもと楽しく触れ合っ
て作ることがコンセプトになっていま
す。

最初は「小さい子どもたちをよろ
こばせたい」という思いで子ども向け
教室を開いていましたが、自分が結
婚しわが子を授かってからは見方が少
し変わりました。自分の子どもをよ
ろこばせたいと思うお母さんが多いこ
とに気づき、ママ向け教室の開講を
増やしました。どのお母さんも自分
の子どものために一生懸命なんです
よね。母親になつたからこそ改めて感
じたので、それからはお母さんたちに

ヒントを伝えて、子どもの
ために作ってもらっています。

「子どもによるこんでもら
えて嬉しい、ありがとう」
とお母さんから言われるこ
とが最近とても嬉しいんで
すよ。そういうよろこびを
広めたいと思います。

ただ、私は作り方と作
るよろこびを伝えたいので、
作ってあげることはできるだ
け避けています。いくらう
まくできなくても、自分の作ったも
のつて、最高なんです。人に上手に
作ってもらったものよりも、自分が一
生懸命作ったもののほうが嬉しい、
子どもだって先生が作ったものよりも
お母さんが作ったもののほうが嬉しい
と思います。お母さんができるように
なる、今度は子どもに作ってあげる
、そうしたらその子が将来の自分の子
どもに作ってあげるかもしれない。よ
ろこびをどんどんつなげていきたいで
すね。

後輩たちへのメッセージ

自分の好きなことは絶対続けるこ
とです。それには周りの協力も必要
ですし、できない期間がある場合も
あります。でも、興味のあることは
いつも心に留めておいて、細々とも
可能な範囲で続ける
ことでの豊かな心が
保てると思います。



目黒星美学園小学校にて、図工の時間に粘土でのスイーツ作りの
授業を行う



目黒星美学園小学校の制服(冬服)につ
いている校章にそっくりの、花田さんお手
製クッキー

「好きなことは絶対続けること」



目黒星美学園小学校 (写真上)

東京都目黒区碑文谷 2-17-6
www.meguroseibisho.ed.jp

目黒星美学園中学高等学校 (写真下)

東京都世田谷区大蔵 2-8-1
www.meguroseibi.ed.jp

世界に開かれた人を育てる アジアの姉妹校交流

星美学園中学校高等学校アジア研修旅行

文・写真 ● 星美学園中学校高等学校

星美学園中学校高等学校(東京都北区)の高校1年生全員が毎年、研修旅行でアジアの姉妹校を訪問。活気あふれる交流と「国際プログラム」を紹介します。

喜んで社会に貢献できる
女性の育成を目指して

星美学園では中学3年時から高校1年時までの2年間、週1時間の配当で、「国際プログラム」という教育プログラムを実施しています。このプログラムは英語力の向上だけでなく、異文化理解に必要な知識・精神、体力・市民力を育成するためのものです。

このプログラムのメインは、高校1年時に韓国・香港・フィリピンの中から1か国を選択して訪問する海外研修です。姉妹校との交流を主軸として、韓国は2泊のホームステイや平和学習、香港は授業体験や日系企業訪問、フィリピンは1泊のホームステイとホームビジット、ストリートチルドレンとの交流などを体験することができま

ドン・ボスコの姉妹校との交流

どの姉妹校を訪問しても、本校の生徒たちは驚くほどの熱烈的な歓迎を受けます。それは「国は違え

アジア各国への研修がもたらすもの

韓国・香港・フィリピンを訪問地

海外研修(ファイルドワーク)を通して培われる 次世代のリーダーシップ

として選択した理由はいくつかあります。まず、日本と同じように母国語を英語としない国であることです。そうした国を訪問し、交流することで英語の学習意欲を向上させるという意図があります。実際、帰国後の生徒たちの感想には「英語の学習の必要性を実感した」という声が多く見られます。同時に、語学だけに頼らないコミュニケーションの本質的な部分に気付く生徒も多くなります。

次に、アジア諸国と日本はこれまでに以上に互恵的な関係を深めていく必要があります。情報化社会の中で一方的な情報に流されず、自分の目で見て、肌で感じることで、アジア社会の一員として我々が果たす役割とは何かをより現実的に考えることができるでしょう。このように、アジア各国への海外研修がもたらすものは大きいと思います。

3か国に分かれて実施される海外研修旅行は、1か国あたり30人前後の集団となります。その規模で文化交流やプレゼンテーション等を行う時、生徒たちは自分の得意なことを活かして活躍します。これは問題を他人任せにせず、自分のこととして捉え、適切に貢献することができ「シニアド・リーダーシップ」を育成することになります。本校ではこの「シニアド・リーダーシップ」こそ、次世代に求められるリーダーシップと考えています。

このように2年間の準備を踏まえて実施される海外研修は、思い出だけに留まらない多くの要素を含んだ旅行であり、生徒の可能性を広げられると考えています。



韓国自由の橋にて。分断国家の問題を肌で感じるよい体験となりました。



日本から持参した浴衣をセブの生徒たちに着付けました。みんな大喜びです!



韓国の伝統的な遊びの体験。次第にどちらの学校の生徒か見分けがつかなくなってきました。



香港のメール相手との初めての出会い。みんな最初は緊張していますが、すぐにうちとけます。



セブ島の姉妹校にて日本文化の発表。食事や「カワイイ」文化、日本経済について等、若者ならではの視点で発表しています。



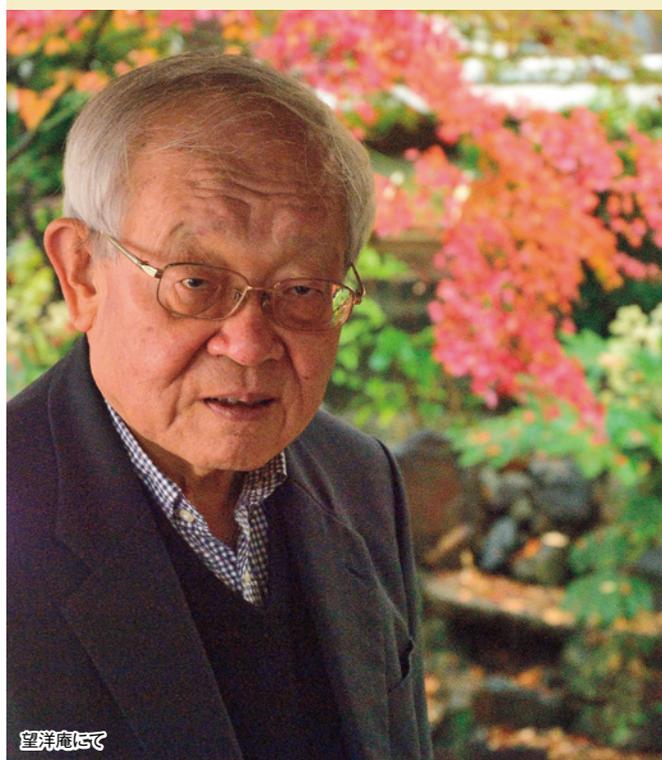
マニラにてストリートチルドレンとの交流の様子。スケッチブックに描いて日本文化を説明しています。



香港の英語詩暗唱の授業。姉妹校生徒にレクチャーを受けながら、みんなで発表までできました。



東日本大震災についてのレポート発表。日本語を選択した生徒たちが驚きと共に聞いてくれました。



望洋庵にて

ありがとう！ 溝部脩司教 若者にささげた生涯

2016年2月29日、原発不明がんのために亡くなった溝部脩司教。生涯を若者にささげる、というモットーのとおり、死の直前まで若者とかかり、神の愛を伝え続けた。常に開かれた彼の姿勢は、多くの若者を励まし、霊的に導き、育成することとなった。彼とかかわりの深い方々の追悼の言葉からその思い出・人柄を振り返る。

(編)サレジオ会・編集部

イエスと出会うための 同伴者

サレジオ会日本管区長 山野内倫昭神父

2016年3月3日通夜読教より抜粋

「私はどこに行つても、サレジオ会員として高校生グループや青年グループを作ってきました。これが自分の特徴です。勲章と言つてもいいかもしれません。人はやはり若いと



若者とともに

きから育てないといけません」と、2014年12月に望洋庵で話してくれました。溝部司教様の牧者の使命として、一人ひとりの青年をイエス・キリストと出会うための同伴者であることを、死を迎える数日前まで続けていました。

「前を向こう、夢をもとう」

大川千寿

申辞より抜粋

溝部司教様と深くかわからせていただくきっかけとなったのは、2011年2月のドン・ボスコ聖遺物日本巡礼でした。イエス様の福音を第1にしながら、いろいろな出会い、夢をもち続ける。そうして神様から与えられた使命を生きていく……。司教様の姿を見て、「ああ、ドン・ボスコってこんな人だったのかな」



リウイジアベツラ神父とともに

と初めて思ったのがこの機会でした。司教様は、お酒が大好きでいらつしやいました。2011年の夏、当時熊本に赴任していた私は、司教様が高松司教を勇退され、静養されていた大分・湯布院にうかがいしながら、翌朝は2人きりでミサをおささげしました。司教様は、「昔のようには体は動かないけれど、一人のサレジオ会員として、若者たちのために自分の人生の最後まで働きたい」という次なる希望について語っておられました。その希望は、翌

2012年に京都・望洋庵の設立という形で結実することになります。そしていよいよ、司教様が尽力されたユスト高山右近の列福が実現します。キリシタン時代の教会・信徒のあり方にも触れながら、今こそしっかりと信仰をもち、「言葉の意味わう」ことが大切だ、とことあるごとに強調されていました。

司教様は、常に新しい課題にあたっていました。80歳近くになっても携帯電話で絵文字を使い、SNSで積極的に発信する。そんな若さもちつとも、揺るぎない信仰とサレジオ会員としての自負を胸に、使命感をもって若者一人ひとりとじっくりとかかわり、育てていかれました。

今、司教様が天に帰られたことは、日本の教会全体にとっても、サレジオ家族にとっても大きな損失で

心遣いの方

井澤恵理子

申辞より抜粋

もし溝部司教様を一言で表現するならば聞かれたら、私は「心遣いの方」と答えると思います。ゲストとして迎える方々がどのような状況や立場にあるのか常に心に留め、気持ち良く過ごしてもらいやすいように努めることを大切にいらつしやいました。だからこそ、分ち合いの時間になると小学生からお年寄りまで誰もが心を開いて、自分の言葉で感じたことや思いを伝えることができたりではないでしょうか。私の司教様「と誰もが感じてしまう程、心遣いを大切にされた司教様でした。」

共に食事をし、祈り、時には相撲を取る溝部司教様の姿から、生き方や信仰を感じさせていただきました。また、私は教育現場で挫折を味わいましたが、司教様の下で立ち直らせていただきました。私と深くかわつてくださったおかげで、自分の信仰を見つめ、イエス様に従う望みがわきました。私だけではなく、司教様は多くの青年一人ひとりとも深くかわつてくださりました。神学校入学直前にいただいた言葉「遅いと言われても、鈍いと言われても、その人らしく誠実に歩めたら、それでいいんだよ」を忘れません。

その人らしく誠実に

高山徹

申辞より抜粋

溝部司教様は、良い青年について2点述べられました。1点目は「たとえお酒が飲めなくとも、誘われたら断らず、ソフトドリンクで同じ席に座る」です。私はお酒があまり得意ではないのですが、司教様の教えを忘れずに、交流会ではソフトドリンクを手に乾杯しました。

2点目は「福音を軸においた青年になること」です。日曜日のミサを大切に、福音を中心とする青年でなければならぬと、仰いました。今、私は仲間たちと共に、聖書を勉強しています。その途中で、道に迷ったときは望洋庵で黙想をさせていただきます。

司教様、神様の隣で私たち日本の青年を、今までと同様にあなたかくお見守りください。●



高山右近列福運動のためにマニラを訪ねる



サレジオ会チャペル前総長の来日時、日本26聖人記念館にて



望洋庵、霊名日のお祝いに祈りの花束を受ける

一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。

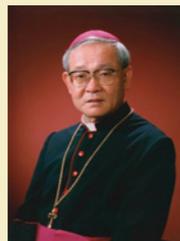
(エラチの信徒への手紙4:2)

フランシスコ・ザビエル

溝部脩

みぞべ おさむ

1935年北朝鮮、新義州に生まれる。1955年サレジオ会入会。1964年司祭叙階。1990～1996年サレジオ会日本管区長。2000年仙台教区長として司教叙階。2004年より高松教区司教。2011年引退。京都市上京区のカトリック西陣教会内の「望洋庵」にて若者の指導にあたる。2016年2月29日、80歳で帰天。



当面の支援先は、カトリック福岡教区（熊本地震被災者支援室）、別府教会（サレジオ会としての被災地支援拠点）、日本カトリック学校連合会（被災地のカトリック学校・幼稚園を支援）とします。（現地との連携体制が整い次第、支援先拡大を検討します。）皆様のお祈りとご支援をお願いします。

《熊本地震被災者支援金の振込先》
郵便振替 00190-5-292253
加入者名：ドン・ポスコ基金
※通信欄に「熊本地震のため」と明記してください。

DBKドーン・ポスコ基金（代表サレジオ会山内倫昭管区長）は「DBK熊本支援チーム」を発足し、緊急募金を受け付けています。

**DBKドーン・ポスコ基金
緊急募金の呼びかけ**



2016年4月14日・16日に連続して最大震度7を記録した熊本地震から3か月が過ぎました。悲しみや不安を抱える被災地の皆様のため、また支援活動に携わる皆様のために心を寄せてお祈りいたします。



くまセンサイト
<http://fukuoka.catholic.jp/kumasen.html>

熊本地震被災地の復興支援活動のため、カトリック福岡教区はカリタスジャパンの支援を受けて「カリタス福岡・熊本センター」（通称くまセン）をカトリック菊池教会（熊本県菊池市）内に設置しました。「くまセン」では被災地ボランティアを募集しています。

**カリタス福岡・熊本センター
（くまセン）がオープン**



DBK「ドーン・ポスコ基金」は、2008年に、発展途上国における援助が必要な青少年の保護育成プロジェクトを支援するために、サレジオ会日本管区が寄付を呼びかけて始めました。サレジオ会の創立者ドン・ポスコの心をもって、現在は日本国内外に支援先が広がっています。

サレジオ家族の状況
サレジオ家族の支部は、熊本県にはありませんが、隣接する大分県、福岡県、長崎県、宮崎県、鹿児島県にあり、16日深夜の大きな地震で、カトリック別府教会（大分県別府市）では、イエスのみ心の聖像が3メートルの高さから落下して破損し、下にあった大理石の洗礼盤も割れるなどの被害が出ました。その夜、別府教会には近隣の幼稚園の庭で朝を迎えた方もいました。その他の支部でも、聖像が倒れたり、一部破損があったりしたものの、大きな被害には至りませんでした。



破損したイエスのみ心の聖像と別府教会主任司祭のブッポ神父

今回の地震を契機に、カトリック別府教会はサレジオ会の被災地支援拠点「DBK（ドーン・ポスコ基金）別府」として、被災した方々との連帯・支援活動を始めています。



▲都城聖ドミニコ学園高等学校（宮崎県都城）では、生徒会の皆さんが熊本地震被災地への募金を呼び掛けています。



▲サレジオ学院中学校・高等学校（神奈川県横浜市）では、生徒たちが校門前に立つて募金活動を行い、被災した熊本マリスト学園に支援金を送りました。生徒・保護者・教職員の皆さんの温かい協力でたくさんの支援金が集まりました。



▲4月17日、日向学院中学校・高等学校（宮崎県宮崎市）吹奏楽部・合唱部のジョイントコンサート「日向学院フェスティバル」で、生徒たちが募金活動を行いました。

被災地支援の動き

の方々と一緒に痛みを体験したイエスのみ心の聖像」として修復し、イエスのみ心の祭日（6月3日）にあわせ、元の場所に設置しました。

もっとキミに伝えたい！

イエス様を愛すること！

そしてイエス様の愛を感じる

今回の応援隊員
マリア・コスタ
まりあ・こすた
サレジオン・シスターズ

イタリアの南部のレッツェエの郊外の出身です。今、ふりかえる、小さいころから、み心のイエスの像を見つめるのが好きで、み心のイエスが私に話し、私を愛しているのを感じていました。それが喜びでした。

子どもが好んで小学校の先生になりたかったので、バリーの大学で教育学を学んでいました。その頃はシスターにだけはならないと思っていました。けれど、

イタリアの南部のレッツェエの郊外の出身です。今、ふりかえる、小さいころから、み心のイエスの像を見つめるのが好きで、み心のイエスが私に話し、私を愛しているのを感じていました。それが喜びでした。

子どもが好んで小学校の先生になりたかったので、バリーの大学で教育学を学んでいました。その頃はシスターにだけはならないと思っていました。けれど、

イタリア・レッツェエ出身。6人兄弟の4番目で、娘はシスターだけ。1953年初誓願。1955年来日。カトリック新聞の「Sr.マリア・コスタのイタリア家庭料理」に登場。

20歳になったら、不思議に神様が呼んでいるような気がしました。そのとき撮った写真がこれです。

そのころ、父の妹である叔母が、結婚の話を持ってきて、いろんな人を紹介してくれました。そのうちに、ある人が私と結婚したいと。私はこう答えました。「私を本当に愛してくれ人であれば結婚しない」と。そして、よくよく考えると、私を本当に愛してくれる人は、私にとってイエス様しかいなかったのです。

叔母には「私は結婚しない。シスターになる」と言いました。すると「よく考えなさい。最初から修道院に行かないように」と言われました。けれど、結婚しないと誓ったにもかかわらず、私と結婚したいという人が次々に来ました。そこで意を決し、自分でサレジオン・シスターズのところに行きました。そのときお会いしたシスターが管区長で、後の日本管区視察担当総評議員エルバ・ボノミです。すばらしい人でした。私に修道者

への召命があると言って、修道会に入るためにいろいろと助けられました。その後、父にも話し、許可をもらって修道院に入りました。最終的に叔母も喜んでくれました。

今年の5月10日で88歳になりました。ふりかえて、皆さんに伝えたいのは、イエス様を愛すること。これが大切ですよ。そしてイエス様の愛を感じる。愛するためにはその方々を知らなければなりません。イエス様は私たちのために、人となって十字架に掛かりました。この十字架の痛みを感じる、愛の痛みを感じるということです。

同じように、私たちのために御子を差し出したマリア様を愛すること。そしてドン・ポスコが勧めたように生きて欲しい。罪を犯さず、喜びのうちに生きることです。

マリア・コスタ 20歳のとき



日向学院で開催されたサレジオ同窓会日本連合役員会

2016年2月27日、日向学院（宮崎県宮崎市）にて、サレジオ同窓会日本連合の役員会が開催され、育英学院（サレジオ高専）、大阪星光学院、日向学院、サレジオ学院、サレジオ小中学校の各同窓会代表者と顧問である山野内倫昭管区長はじめ校長のサレジオ会員ら21人が出席した。サレジオ家族年間目標の紹介、役員追加、規約改正、2015年度事業の進捗報告、昨年10月の世界大会の報告、今後の展望など充実した話し合いが行われ、連合

サレジオ同窓会連合
日向学院で役員会開催

同窓生

る文化・考え・環境の人たちを受容するという真のグローバル人材を育成するためにふさわしい経験を与えてくれる国として、フィリピンでの研修を行っている。参加した生徒は、姉妹校の生徒と楽しく交流する一方、高層ビルと隣接するスラム街を目の当たりにして強い衝撃を受けるなど、単なる語学研修に留まらない豊かな経験を積んで帰国する。サレジオ学院では、今後もサレジオのグローバルネットワークを活用し、人材育成の取り組みを図りたいと考えている。



星美学園短期大学で開催されたウニオーネ総会

扶助者聖母会同窓会（ウニオーネ）では毎年4月、日本管内8支部のウニオーネが集まり、ウニオーネ総会を開催している。今年は2016年4月10日、星美学園短期大学（東京都北区）に各支部の代表約40人が集合。マッサ神父司式のミサで総会の実りを祈った後、サレジオ・シスターズ管区長の森下ワカヨシスターが臨席し、昨年度の活動報告、本年度の活動計画が話し合われた。昼食時間は遠方の会員どうしが年に一度

扶助者聖母会同窓会
ウニオーネ本部総会開催

メンバーが「共に」支え合いながら歩んでいくことを確認できた実り豊かな会合となった。サレジオ会来日90周年の機会に日本のサレジオ会発祥地に近い、チマッティ神父が初代校長を務めた日向学院の校内も見学。懇親会では日向学院OBの地鶏専門店で料理を楽しみつつ、一層の交わりを深めた。



調布サレジオ神学院で開催された青少年の集い

2016年6月4〜5日、調布サレジオ神学院（東京都調布市）に関東近辺の小教区から小学校高学年から中高生約50人が集まり、青少年の集いが開催された。テーマは「イエスと共に歩む喜び」。聖人たちについて学んだ後、各班で発表。最後はミサで締めくくられた。このイベントは、サレジオ会、サレジオ・シスターズ、イエスのカリタス

サレジオ家族合同
青少年の集い
調布サレジオ神学院で開催

青少年

ゆっくり語り合う懇親の場となった。午後は、昨年8月の世界連合総会参加者による報告と、9月に実施予定の「山中のつどい」の進め方、ウェブページの活用などについて活発な意見交換が行われた。また、ウニオーネ本部では毎年5月、全同窓生に届ける機関誌「UNION」を発行。今年で84号を数える本誌はA4判12ページで活動報告や神父・シスター方による霊的助言、各支部のニュースを掲載している。

2016年4月16日、カトリック新田原教会（福岡県行橋市）で、サレジオ会の谷口亮平さんが助祭に叙階された。福岡教区の宮原良治司教、サレジオ会の山野内倫昭管区長、福岡教区の司祭、シスター方、四日市の志願者、新田原

サレジオ会
谷口亮平新助祭誕生

修道会

2016年6月26日、第46回サレジオ6教会の集いが東京・カトリック下井草教会にて開かれ、200人近くが参加した。サレジオ6教会とは、首都圏にあるサレジオ会が司牧を担当する6つの教会（足立・鷺沼・下井草・調布・碑文谷・三河島）のこと。今回は、聖堂でサレジオ会の山野内倫昭管区長の講話を聞いたのち、日本の教会、サレジオ会の司祭・修道者召命促進のために祈りを捧げた。今後1年間、召命のための祈りのリレーが6教会で行われる。下井草教会の方々の心のこもったおもてなしを受けながら、歓談・交流、各教会の現況紹介などと続き、アヴェ・マリアの祈りで閉会となった。次回は2017年、碑文谷教会で開催予定。

サレジオ6教会の集い
カトリック下井草教会で開催

教会

修道女会の3修道会による「コラボ企画」として開催。各会が夏の野尻湖で開く召命錬成会の呼びかけも行われた。



▲各地の小教区（教会）でも義援金を呼びかけています。浜松教会（静岡県浜松市・写真右）では子どもたちも募金活動に参加。碑文谷教会（東京都目黒区・写真左）では青年たちも募金を呼びかけています。



▲目黒星美学園中学高等学校（東京都世田谷区）では、生徒が開発した携帯トイレ1万セットを100人以上の生徒で心をこめて作り、4月20日には現地に届けられました。



▶目黒星美学園小学校（東京都目黒区）では、児童から被災地に献金を送りたいとの声が寄せられました。自分達にできる小さな我慢や節約、お手伝いなどをして貯めたお金を毎月集めている「まごころ献金」を被災地に届けました。



▲町田サレジオ幼稚園（東京都町田市）では、園児と保護者の皆さんが被災地の状況を学んで、被災者のために祈り、募金活動を行いました。

生徒・教職員

サレジオ家族教職員養成講座
2016年度スタート

5月13日、聖マリア・マザレロの祝日に、サレジオ会研修施設サイテック（東京都杉並区）にて2016年度サレジオ家族教職員養成講座がスタート。今年度は浦田慎二郎神父（サレジオ会）を同僚司祭とし、サレジオ家族の事業所に勤める教職員らがコーディネーターとなつて、主として若手教職員を対象に、2か月に1回のペースでドン・ボスコと教育についての学びを進める。第1回は「サレジオ家族とは？ サレジオ家族の学校とは？」をテーマに講話を聞き、各事業所に抱えているイメージや、ドン・ボスコの教育法や精神について分かち合った。実践に基づきながら、事業所を超えた共通点に気づき、またそれぞれの課題を語ることもでき、充実した時間となった。山野内倫昭管区長は「皆さんの子どもたちへの働きは、神様から与えられた使命・召命で



サレジオ家族教職員養成講座で学ぶ参加者たち

す」と強調し、また、小島理恵シスター（サレジオ・シスターズ、目黒星美学園小学校長）は「ドン・ボスコ、マリア・マザレロの時代から協力者の存在が重要でした」と、教職員たちを激励した。

サレジオ学院中学校・高等学校
フィリピン語学研修

サレジオ学院高等学校（神奈川県横浜市）では、2013年度から高校1年生の希望者を対象にフィリピン・マニラでの語学研修を実施している。毎年約30人の生徒が春休みに9日間の日程で訪問。前半の5日間は語学学校で缶詰になつて授業を受け、その後、市内観光、ボランティア活動、サレジオ家族の姉妹校であるカリタス・ドンボスコ・スクール（イエスのカリタス修道女会）との交流などを行う。語学研修といえば欧米に行くのが一般的だが、本校では英語の習得だけでなく、グローバル化が進む中で日本がアジアの中でどのような存在なのか、日本人の生活環境がいかに恵まれているかなどを肌で感じ、自分と異なる



サレジオ学院とカリタス・ドン・ボスコスクールの生徒たち



谷口亮平新助祭、2016年6月8日に帰天した古木真理一神父（右）と



青年の集い、夜のジョイフルアワーの1コマ

教会の信徒の皆さんなど、400人以上の参列者に見守られて、新助祭が誕生した。新田原教会は、サレジオ会の古木神父、北川純二神父、北川大介神父も輩出している。翌17日、世界召命祈願の日に新田原教会で行われたミサは、山野内管区長が主式、谷口新助祭が説教を担当。月に一度の子どもを中心としたミサで、谷口助祭は、羊飼いと羊の群れについて、とてもわかりやすく、子どもたちの心に灯をともしメッセージを語った。現在はフィリピン・マニラのバラニャーケ国際神学院に留学中。

サレジオン・シスターズ
青少年の熱い思いに赤羽台が沸き立つ

2017年に行われるサレジオン・シスターズ日本管区集会に向けて、まずは青少年たちの生の声を聞こうと、4月29日～5月1日、姉妹校の高校、短大、養護施設から代表の若者たち21人が東京赤羽の扶助者聖マリア修道院に集まった。集いのテーマは「まなざしを広げて、人が大切にされる世界に」。実施のため1年前から管区レベルでの委員会が準備を重ねてきた。各学校・施設の子どもたちから集めた事前アンケートの回答をもとに話し合い、このイ

ベントを通して彼らの価値観に問うことになった。準備委員会の「一体どんな展開になるのか、伝えたいことが伝わるのか」との不安はまったく不要。参加者は、普段は語り尽くせない奥深いことをワークシヨップで分かち合い、本当に大切にすべきは「その人がここに『いる』ということ」だと結論。その実現のために最終日、マニフェストを自分たちの言葉でまとめあげた。プログラムの間には、各校・施設のPRやレクリエーション、各グループの独創的な発表なども行われた。最後は浦田慎二郎神父によるミサで締めくくり、修道院の中庭にて昼餐会。歓喜は最高潮に達し、3日間でしたっかりと心をつないだ若者たちは「仲間たちに伝えること」という宣教と再会を誓い合って帰途についた。

イエスのカリタス修道女会
キリストの聖体の祭りに聖体行列

2016年5月29日、キリストの聖体の祭日に、イエスのカリタス修道女会日本管区本部（東京都杉並区）において聖体行列が行われた。下井草、西千葉、多摩、関口、板橋教会などから、信徒の方々も参加し、会員を含め

約250人が共に聖体への礼拝と賛美を捧げた。この聖体行列は、創立者カヴォリ神父が、1931年5月17日に宮崎教会主任司祭の時に企画し、宮崎の大通りで荘厳に行ったことが始まりで、今も伝統的に行っているもの。今年テーマは「神の憐みといつくしみに養われて」。カリタスの園小百合の寮の祭壇では、御父のいつくしみ、その愛の姿、并荻聖母幼稚園の祭壇では、イエス・キリスト、父の慈しみのみ顔、管区本部では、裂かれたもう一つのいつくしみのパン、という内容で、祈りが深められた。特に、管区本部聖堂では、マタイ14章の「5つのパンと2匹の魚の奇跡」の箇所が朗読され、この時のために準備したパンを、司式のマルシリオ神父が祝福し、それを使徒に扮した下井



杉並で行われた聖体行列の様子

サレジオニ・コオペラトリー
EAO地域東京大会開催に向けて
ご支援のお願い

2017年5月7～10日に東京で開催予定のサレジオニ・コオペラトリーEAO東アジア・オセアニア地域大会に向けて準備が進んでいます。

テーマは「Together, Come for the Young」（集まろう、若者のために）。EAO地域13か国から100人を超える会員が参加するほか、各国から2、3人の若者を招きたいと考えています。日本のサレジオ家族の若者にも参加を呼びかけたところ、参加・協力してくださるとい嬉しのお返事をいただきました。

この動きを加速するため、経済的に恵まれないベトナム、モンゴル、東

ティモールなども含め若者総勢50人の参加を見込み、3泊4日のホテル滞在費や、2日目のサレジオニ・コオペラトリー入会式を含む富士の聖母巡礼のバス代等、1人当たり5万円、計250万円を目標に、すでに各方面に寄付を呼びかけていますが、目標にはほど遠い状況です。

昨年ドン・ボスコ生誕200周年の数々の記念イベントで見せてくれた若者たちの生き生きとした姿を再現し、アジア近隣諸国の若者たちと一堂に会しての有意義な交流が実現しますよう、「ドン・ボスコの風」読者の皆様にご支援を切にお願い申し上げます。

《支援金振込先》
りそな銀行調布支店
普通預金 4542502
サレジオニ・コオペラトリー

PRESENT ドン・ボスコの風
読者プレゼント

応募方法:
お名前(フルネーム)・住所・年齢・ご職業とご希望のプレゼント(A・B・C)いずれか一つを明記し、本誌のご感想・ご要望をお書き添えの上、Eメールまたはハガキで下記宛先までお送りください。

【Eメールの場合】
dbw@salesians.jp
【ハガキの場合】
〒160-0011
東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部
「ドン・ボスコの風」編集事務局
応募締切: 2016年10月30日消印有効

当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。ご応募いただいた方の個人情報は賞品の発送のみに使用し、その他には一切使用致しません。

A チマッツィ神父
日本を愛した
宣教師

最初に来日したサレジオ会宣教師チマッツィ神父。困難を乗り越える強さ、ほほ笑みと音楽で人びとを惹きつけ、日本の青少年のために祈り働いた生涯が、豊富な写真とともによくわかる伝記。
テレジオ・ボスコ著
ガエタノコンプリ編訳
新書判変形並製 87頁

B ドン・ボスコ
木製
キーホルダー

シックな青と木の温もりのコントラストがおしゃれな、小ぶりのキーホルダー。大切な持ち物やバッグに付けて歩けば、サレジオ会の人々に注目されること間違いなし!
H37×W24×D6mm
リング直径21mm

C 心が強く優しくなる
ドン・ボスコの
ことば100

子どもたちの「魂」を愛し育てることを大切にしたドン・ボスコ。寄り添い、人を笑顔にし、導いてくれる100のことば集。サレジオ会の神父たちによる、じわっとくるコメントも読み応えありです。
サレジオ会日本管区編
浦田慎二郎監修
文庫判並製 205頁

5名様 5名様 5名様
(いずれもドン・ボスコ社提供 www.donboscosha.com で取扱中)

from the Editor 編集後記
初めの一步。何事もここから始まる。よちよち歩き、つまずき倒れ、後退し、それでも前に進んでいったとき、やがてそこに一つのスタイルが生まれる。90年前の、チマッツィ神父たちの初めの一步を今きちんと思いを巡らしたい。そして彼らがまいた種を刈り入れ、また次の世代のために新たな種をまき続けていけますように。(S)

ドン・ボスコの風 No.17
SALESIAN BULLETIN JAPAN July 2016
2016年7月15日発行(年2回発行)

編集人 関谷 義樹
発行人 山野内 倫昭
発行所 カトリック・サレジオ修道会
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011
東京都新宿区若葉1-22-12
電話:03-3353-8355
Fax:03-3353-7190
Eメール:dbw@salesians.jp

編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社
印刷所 日之出印刷株式会社
本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2016

次号No.18は2017年1月発行予定です。「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ <http://salesians.jp> でご覧いただけます。トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」

ソーシャル・ネットワーキング・サービス
SNSでも 日本・世界各地の
サレジオ情報を発信中!

ドン・ボスコの風 Facebook ページ
http://www.facebook.com/dbnokaze
ドン・ボスコの仲間たちとつながろう! いいね! をクリック!

Twitterはじめました!
ドン・ボスコくん @DonBoscoSha
フォローする

Ciao! ドン・ボスコくんのツイッターアカウントだよ!
サレジオ青年の活動情報や、教会の暦などに加えて、
中の人ゆる〜い日常もお届けしちゃうよ!

サレジオ情報の投稿をお待ちしています!
サレジオ家族の学校・施設・活動グループ・教会・修道院での
日々の出来事について、写真や動画とコメントをお寄せください。
送り先 サレジオ会広報 koho@salesians.jp

Info



2016年1月31日ド・ボスコの記念日に、シエラレオネの生徒たちとフェルナンデス総長

Message from the Rector Major

サレジオ会総長メッセージ

最も貧しい人びとを 心にいだくサレジオ家族を夢見て

世界中のサレジオ家族とド・ボスコの友人の皆さんのために、私がいただいている夢の一つは、ド・ボスコの生き方の規範だったものです。それは、最も貧しい人、特に子どもたち、若者、最も困窮し、最も恵まれない状況にある子どもたちを心にいだくということです。

シエラレオネの18日間の訪問のことが、今も目の前に、そして心の中にあります。路上から集められた少年たち、性的搾取による隷属から解放された少女たち、エボラ出血熱で親を失った子どもたち。皆さんとサレジオの家で出会い、子どもたちの人生に今、新たな地平が現れているのを見て、ド・ボスコが若者たちとの

出会いの中で感じたのと同じ喜びを、私は感じる事ができました。

教皇フランシスコは呼びかけています。「この世を目覚めさせてください、皆さんの証しによって、この世を光で照らしてください!」

この上昇の旅を続けましょう。サレジオ家族のすべての人が、私たちが必要とする貧しい若者たち全員を救うことができないことを、魂の奥底から悔やむようになるまで。

総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

2016年4月 サレジオ家族へのメッセージより抜粋